関西自然保護機構会報 19(2)：135－136，1997

近畿地方から絶滅した植物　3 [1)]

村　田　　源 [2)]

EXTINCT PLANTS FROM KINKI DISTRICT, JAPAN. 3

Gen MURATA

ムジナモ　*Aldrovanda vesiculosa L.*（イシモチソウ科）（図４）

ムジナモはユーラシア大陸，インド，オーストラリア，アフリカに広く分布することが知られているが，その生育している池沼は極めて少なく，世界的にも希な植物である。長さ６－25cmぐらいの茎に密に６－８個の葉を輪生して水面に浮き，冬には茎の先端に球状に葉が集まった越冬芽を作って越冬する。花は捕虫葉のない葉の葉脈に７－８月頃１個ずつ咲いて，淡緑色，５弁，１日でしぼみ，ごく少なくて小さく，見付けにくい。日本では1890（明治23）年５月11日牧野富太郎によって，江戸川土堤内の池（当時小岩村伊豫田）で発見されたのが最初である（牧野：1928，1940）。その後，荒川，木曽川，淀川流域の池でも見付かり埼玉県宝蔵寺沼の自生地は国の天然記念物に指定されていたが，ここでも絶滅した（一部人工的に保護育生されている）という（佐竹ほか編，1992；我が国に於ける保護上重要な植物種および植物群落の研究委員会植物種分科会，1989）。

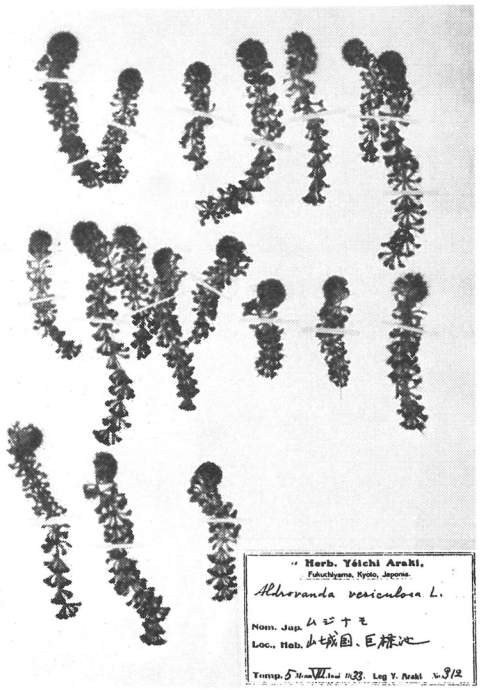


図４　ムジナモ *Aldrovanda vesiculosa L.*
京都市伏見区向島巨椋池，昭和８年７月５日，荒木英一採集の標本（荒木 No. 312），京都大学理学部にて村田撮影．

この植物が近畿地方で知られているのは旧巨椋池（現在は京都市伏見区向島であるが，干拓されて池の姿は全く無い）だけである。ここでは大正14（1925）年に三木茂によって発見された。巨椋池産のムジナモの写真は「植物分類研究下」（牧野，1940）313頁に出ている。巨椋池は昭和８年６月から国営の干拓事業が進められ，昭和16年に干拓が完成してその姿を消した（巨椋池干拓誌，1962；村田，1891）。巨椋池の一部向島村東定請は大正14年10月，内務省から「ムジナモの生育地」

1）関西自然保護機構業績　第200号
2）〒615 京都市西京区松尾大利町 20－55

として国の天然記念物に指定された（竹内，1962）。千拓事業の進行にともない，堤防を作って小池を残し保護策が講じられたが，ムジナモは巨椋池の干拓が完成するのを待たずにここから姿を消し，昭和15年12月，文部省告示第633号によって天然記念物の指定が解除された（三木，1981）。

開発予定地に貴重な植物が生育していることがアセスの調査でわかれば，その植物を移植して保護をはかろうとする動きがあるが，これは自然の保護にならないことの方が多い。また遺存種の場合には，そこに生えている植物種そのものよりも，その種がそこに生育し得たということによって指標される環境がそこに残っているという事の方が大切な場合もあるのである（梅原，1996）。

引用文献

梅原　徹．1996．環境アセスメントで自然が守れるか，古都San Zan 49号，京都自然史研究所．

佐竹ほか〔編〕．1992．日本の野生植物草本Ⅱ，平凡社．

竹内　敬．1962．山城草本誌，宗教法人大本．

牧野富太郎．1896．ムジナモ（新称），植雑4巻45号（植物分類研究下8頁に再録）．

————．1891．ムジナモ，日本植物誌図篇12集70図版（牧野日本植物図説集120，135－136頁に再録）．

————．1905．植物新産地三報，植雑20巻236号（植物分類研究下60頁に再録）．

————．1928．我日本ニ於ケル学界ニ興味ヲ与ヘシ植物発見ノ略史，植研5巻2号（植物分類研究下307－318頁に再録）．

三木　茂．1981．巨椋池の動植物－植物，巨椋池干拓誌（追補再版）251－265，巨椋池土地改良区．

村田　源．1981．深泥池の保護と行政上の問題点，「深泥池の自然と人」299－300，京都市文化観光局．

我が国における保護上重要な植物種および群落の研究委員会種分科会〔編〕．1989．我が国に於ける保護上重要な植物種の現状，日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会．

レッドデータブック近畿研究会〔編著〕，1995．近畿地方の保護上重要な植物，関西自然保護機構．